

## 0 理念

### 進捗状況報告

2003年度に設定した目標（「具体的な教育目標」）に関する進捗状況は以下の通りである。①卒業生の就職状況は堅調に推移している。製造業などの一般企業をはじめ、新聞・放送・広告などの情報メディア産業、公務員、教員など、多彩な分野に人材を送り出している。②「社会福祉士」資格に関しては、68名（03年度）、58名（04年度）、59名（05年度）、39名（06年度）が国家試験に合格している。「精神保健福祉士」資格に関しては、7名（03年度）、6名（04年度）、4名（05年度）、2名（06年度）が国家試験に合格している。③「社会調査士」（社会調査士認定機構）に関しては、27名（03年度）、25名（04年度）、47名（05年度）、41名（06年度）が資格を授与されている。

2005年度自己点検・評価の「改善の具体的方策」として「より社会の現場に密着した教育への取組み（企業やNGOへのインターンシップの積極的導入）」があるが、現在まで具体的な施策の導入はなされていない。

なお、2008年度には社会福祉学科が分離独立し、これまでの理念や目的を現代化した「人間福祉学部」がスタートする。社会学部もまた、社会学科のこれまでの理念・目的を現代化し、2009年度を目処に抜本的な学部再編（定員増を含む）を行うことが予定されている。

### 学内第三者評価

理念的目標、具体的目標が的確に設定されているのは評価できる。「社会福祉士」及び「精神保健福祉士」の合格者は最近減少しているが、「社会調査士」の資格を得た者は増加している。これらについて著しい減少がある場合は、目標設定の適切さ、目標実現方法の適切さに問題がないか、検証することが期待される。

また、2005年度自己点検・評価の「改善の具体的方策」で記されている「より社会の現場に密着した教育への取組み（企業やNGOへのインターンシップの積極的導入）」の具体的な施策の検討が望まれる。

なお、特別委員からは以下の意見があった。

- 適切な自己点検が行なわれており、目的はおおよそ達成されている。
- 卒業生の国家資格獲得などにおける目標達成度は高い。
- インターンシップによる実務経験は重要な教育的意味があるので、その実現に引き続き努力することが望まれる。
- 学部組織改変途上であるが目標に掲げた学生の能力・資質の向上をどのように行ない、国家資格取得以外で、その成果をどう測定するのかをより明白にすることが望まれる。